

平成 26 年度第 3 回ルール委員会議事録

開催日時： 2014 年 3 月 21 日(土) 13:00～17:00
2014 年 3 月 22 日(日) 9:00～12:00

開催場所： 境港マリーナホテル内会議

参加者： (委員) 増田 開、大村雅一、前園 昇、松原次夫、柴沼克己、日下部大蔵、榛葉克也、
山口泰正、高野由美子、中野佐多子、富田博司、木内 誠、加藤圭二、
黒木信治、兼田幸治
(支援委員) 高田俊男 (顧問委員) 周東英卿、西田昭二 ※順不同、敬称略

議事 01 <協議> 「かけ声」英語化の周知活動

・ JSAF 理事会 (H27.2.28 開催) 報告について

平成 27 年 2 月 28 日の日本セーリング連盟理事会にて平成 26 年 11 月 30 日開催の平成 26 年第 2 回ルール委員会にて決定した事項について報告があった。

・ プロテスト

- ・ 抗議の要件の一つであるかけ声「プロテスト(抗議)」で「抗議」のかけ声を無効にする場合、無効にすることは「競技規則の変更」ではないので帆走指示書ではなく通告にて伝えることが必要。
- ・ A 級ジャッジ、全国指導者、レース委員会・計測委員会その他関係者に対し 2017 年より変わること、それ以前では通告により変更できることを周知する。
- ・ レガッタ・レポートに「抗議」を無効にした旨を記載してもらう。
- ・ 「抗議」を使用した抗議があったかどうかを、レガッタ・レポートに記載してもらう。

議事 02 <協議> 今年あったケースの研究

・ 02.1 : コースの帆走を続ける

- ・ ISAFQ&A へ質問を行う内容について報告があった。

・ 02.2 : RC による中止判断に対する救済

- ・ 中止をしなかったことは RC の不手際か？
- ・ 競技運営説明会は有効な説明であるのか？
- ・ 救済の与え方はどのように与えるのがよかったのか？
などの、意見が交換された。

・ 02.3 : 落水者救助

- ・ 救助は RRS41(a)に該当するが、落水者の引き上げ後、離れた艇に選手を戻す行為は明らかに有利を得たのか？

- ・有利を得た場合、DPI を与えるべきなのか？
 - ・外部の援助について、危険な状態にあるかどうかの判断、引き上げ要否の判断、その乗員を艇へ戻す方法の議論がされた。その結果、
 - ・ 落水者は危険な状態にある乗員である。
 - ・ 落水者に関しては極力ピックアップし、その後に乗員を艇へ戻す場合の DPI は、ピックアップした場所から乗員を艇へ届けることにより得たゲインにて、DPI の要否、付与する得点決める。
 - ・ 必要に応じて大会で案内・説明を行う。
- などの意見が交わされた。

- ・ 02.4 : コース・サイド不明確なフィニッシュ・ラインでの多くの類似した救済要求
 - ・ フィニッシュ・ラインの片方のマークが見えない場合において救済を与えるのか
 - ・ その艇の過失有無の判断。
 - ・ RC の不手際によって発生した救済要求の場合、艇に対する同情的判断が生まれがちであるが、規則 62.1 の要件を冷静に確認することが必要。
- などの議論がされた。

- ・ 02.5 「インシデントの説明」の見取図・記述と抗議の要件
 - ・ 抗議書の記述欄に「図を見よ」のみ記載の場合、その抗議は有効か？
 - ・ 抗議書の書き方はインシデントの記述欄に記述することを勧める
 - ・ 被抗議艇が当インシデントに関してわかるインシデントであること
 - ・ 記述が不十分でも図によってそのインシデントがはっきりとわかることが必要
- などの意見が交わされた。

- ・ 02.6 : 伝わらなかったロメオ信号/オスカーと繰り返しのタック
 - ・ A4 の大きさのフラッグは視認できるフラッグといえるのか。
 - ・ 繰り返しのタックの「タック」とは何か？などの議論がされた。

- ・ 02.7 : 審問再開と「新しい証拠」
 - ・ 大会の特性により、他チームが撮影したビデオは新しい証拠とはならない。
 - ・ 審問開始前の「インタビュー」として、かつ「Jury or PC の重大な誤りかどうかを見極めるため」としてその映像を見るという事例はあった。
- などの議論がされた。

◆議事 03 <報告> 規則 69/規則 2 適用報告

規則 2 適用報告

- ・ 規則 2 の違反に関し、大会のプロテスト委員会ポリシー
- ・ 規則 2 の適用を多く行う事で選手に対し規則 2 を浸透、意識の改革

・明らかな規則 31 違反認識後のペナルティー不履行は PC 発議で抗議が一般的だが、2 章の規則違反に関しては、通常 PC 発議はしない。それは、PC はすべてのインシデントを見ることができないためであり、いわば公平性確保の観点の考え方。などの意見が交わされた。

◆議事 04 <報告> 平成 26 年度小委員会活動報告

●04.1 ジャッジ小委員会

○ジャッジ小委員会活動報告

小委員会より活動報告があった。

●04.2 IJIU 育成小委員会

○IJIU 育成小委員会活動報告

小委員会より活動報告があった。

●04.3 アンパイア小委員会

○アンパイア小委員会活動報告

小委員会より活動報告があった。

●04.4 規定管理小委員会

○規定管理小委員会活動報告

小委員会より活動報告があった。

●04.5 外洋規則小委員会

○外洋規則小委員会活動報告

小委員会より活動報告があった

●04.6 普及小委員会

○普及小委員会活動報告

小委員会より活動報告があった。

◆議事 05 <協議> H27 年度事業計画

○H27 年度ルール委員会事業計画

○H27 年度東京オリンピック準備委員会事業計画へのルール委員会提案分

委員長より計画報告があった。

◆議事 06 その他

セーリング競技規則、ケースブックでの言葉の統一性。RRS2017-2020 版の翻訳について今後の対応が話し合われた。